

第 117 回日商簿記 2 級 第 1 問 仕訳問題類題 問題・解答

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	不 渡 手 形
売 掛 金	前 払 金	貯 蔵 品	仮 払 消 費 税
車 両	車両減価償却累計額	支 払 手 形	買 掛 金
前 受 金	仮 受 消 費 税	未 払 消 費 税	貸 倒 引 当 金
売 上	固 定 資 産 売 却 益	償 却 債 権 取 立 益	仕 入
減 価 償 却 費	固 定 資 産 売 却 損	手 形 売 却 損	貸 倒 損 失

- 猪俣商店より売掛金の決済のために受け取り、過日、小田原銀行で割引に付していた、同店振り出し、当店宛ての約束手形 ¥ 500,000 が満期日に支払拒絶されたため、同銀行より償還請求を受け、小切手を振り出して決済した。また、期日後利息 ¥ 3,000 は現金で支払い、手形金額とともに猪俣商店に対し支払い請求した。
- (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
- 決算に際して、消費税の納付額を計算し、これを確定した。なお、本年度の消費税仮払分は ¥ 200,000、消費税仮受分は ¥ 300,000 であり、消費税の会計処理は税抜方式によっている。
- 平成 14 年に購入した社用車（取得原価 ¥ 5,000,000）を、当期末（平成 20 年 3 月 31 日）に ¥ 1,000,000 で売却し、代金については小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。当該車両は生産高比例法で減価償却しており（総走行可能距離 10 万キロ、残存価額 10%、記帳方法・間接法）、前期末（平成 19 年 3 月 31 日）時点の実際走行距離は 8 万キロ、当期の実際走行距離は 1 万キロである。決算に当たって当期の減価償却費を計上した上で売却の処理を行うこと。
- (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

・解答

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
1	不 渡 手 形	503,000	当 座 預 金	500,000
			現 金	3,000
3	仮 受 消 費 税	300,000	仮 払 消 費 税	200,000
			未 払 消 費 税	100,000
4	減 価 償 却 費	450,000	車 両	5,000,000
	車両減価償却累計額	3,600,000	固 定 資 産 売 却 益	50,000
	当 座 預 金	1,000,000		
別解	減 価 償 却 費	450,000	車両減価償却累計額	450,000
	車両減価償却累計額	4,050,000	車 両	5,000,000
	当 座 預 金	1,000,000	固 定 資 産 売 却 益	50,000